

5. 開発調査「ガーナ国技術教育計画開発調査」の概要

出典：JICA The Study for Development of a Master Plan to Strengthen Technical Education in the Republic of Ghana(2001年11月) から抜粋し和訳

「ガーナ国 技術教育計画開発調査 (マスタープラン調査/フェーズⅠ～フェーズⅢ)」は2000年3月から2001年11月にかけて実施された。協力金額は総額3億円。同開発調査の目的は、“ガーナにおける技術教育セクターの改革によって、自立的な発展メカニズムを持ち、政府財政負担を軽減し、労働市場の変化にも柔軟に対応できる技術教育システム (マスタープラン) を構築すること”であった。以下に、本開発調査で策定された技術教育改革マスタープランの概要を示す。

(1) 長期国家政策の策定

政府は効果的かつ統一された技術職業教育のために明確な国家政策を打ち立てるべきであり、教育省のみならず環境科学技術省、雇用社会厚生省などの関係各省庁、更には職員、教員、生徒、産業界などの関係者と連携して取り組むことが期待される。

(2) 技術職業教育セクターの生涯教育への方向付け

現行の技術職業教育は学齢期の若者中心で就労者は対象外となっているが、短期コースを設ける等、就学年齢層を広げる取組みが必要である。

(3) Competency-Based Training(CBT)アプローチの採用

ガーナでは一般的に技術職業教育セクターと産業界の結びつきがなく、技術職業教育機関で養成された人材と産業界のニーズとにミスマッチが生じている。その原因は、産業界は教育への経済的、技術的支援に消極的であることにあり、この問題に的確に切りこみ解決するため、CBTアプローチを採用する。

CBT アプローチとは、中等教育以上レベルの学生や成人が技能習得を目指すのに適した実技型訓練アプローチで、産業界側は職場で要求される知識と技能を規格化し、受講者がその規格化された技能を習得することに焦点をあてている。また、受講者の達成度を評価できるシステムで、訓練スケジュールも受講期間などを個人で設定できるなどの柔軟性があり、受講者の現状に合わせ、個人のペースで学習することができる。

(4) 産業主導型の導入を推進する

技術職業教育の指導内容の作成に産業界を参入させ、従来の「カリキュラム」という概念とは異なる「Training Packages」を産業界により開発する。産業界は能力規格、評価ガイダンスおよび資格を設定し、教育・養成機関は教授法、評価に使用する材料、指導・訓練に必要な環境に責任をもつものとする。

(5) 学習・訓練機会拡大のための短期コースを開設する

定期的に教育・養成期間に通うことが困難な就労者や学習・訓練の機会を得にくい人々を対象に短期コースを設け、コースに応じた資格を取得できる制度を整える。

(6) 技術職業教育機関間の競争力を高める

技術職業教育機関同士の競争力を高め質の向上をはかる。そのためには成果を適切に評価する査定制度や視察が必要となる。

(7) 国家資格フレームワーク (NQF) を設定する

国家資格フレームワーク (NQF) を設定し、それぞれの省が交付していた資格を統括し、Industry Training Advisory Board が規定水準を設け資格を設定する。

(8) 新しい資金源を開発する